

令和5年度 病害虫防除技術情報 第6号

令和5年10月2日

大分県農林水産研究指導センター

農業研究部

秋季の高温傾向時における防除対策について

九州北部地方は9月21日における福岡管区气象台発表の1か月予報では、平均気温は、平年並20%、高い確率70%、降水量は、少ない確率40%、平年並40%と予想されており、今後しばらくは高温や乾燥が続くことが予想されます。そのため、うどんこ病、すすかび病、ハダニ類、アザミウマ類及びヨトウムシ類などの高温乾燥を好む病害虫の多発が予想されます。また、高温傾向の継続による暖冬によっては、べと病や灰色かび病等の初発生時期が早まる可能性も懸念されます。

そこで、このような気象条件を好む病害虫の発生には、より一層の注意を払うとともに、速やかな防除に努めましょう。

1. 高温乾燥時に注意を必要とする主要病害虫、防除対策及び発生状況

次ページ掲載の表を参照。

2. 防除上注意すべき事項

- 1) 薬剤散布の際は、展着剤も活用するなど、株元にもしっかりと散布する。また、薬剤によっては、高温時に薬害を生じやすいものがあるため、散布時間や天候、使用する展着剤の種類等に十分注意した上で散布を行う。
- 2) 多肥や肥料不足は病害虫の発生を助長するため、適正な肥培管理に努める。
- 3) 施設内の過湿や過乾燥は病害虫の発生を助長するため、換気、摘葉、整枝及び灌水等により適切な湿度管理に努める。
- 4) 使用薬剤は大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照し、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。中でも同一成分を含む薬剤を連用しないようローテーション散布を心掛ける。（ホームページアドレス <https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujosh/>）



表 高温乾燥時に注意を必要とする主要病害虫、防除対策および発生状況

作物名	病害虫名	主要な防除手段	発生状況	
野菜	ネギ	べと病	薬剤防除 【平坦地:9月20日調査 中山間地:9月15~21日調査】 発生面積: 平年並 発生量: 平年並	
		シロイチモジヨトウ	薬剤防除 【平坦地:9月20日調査】 発生面積: やや多い 発生量: 平年並	
		ネギアザミウマ	薬剤防除、周辺雑草の除草 【平坦地:9月20日調査 中山間地:9月15~21日調査】 発生面積: やや多い 発生量: やや多い	
	トマト	すすかび病	薬剤防除 樹勢管理(適切な灌水管理、施肥管理等) 栽培管理(摘葉、整枝、被害葉除去等) 湿度管理(施設内の換気等)	【9月15~19日調査】 発生面積: 平年並 発生量: やや多い
		うどんこ病	薬剤防除 樹勢管理(適切な灌水管理、施肥管理等)	【9月15~19日調査】 発生面積: やや多い 発生量: やや多い
	イチゴ	うどんこ病	薬剤防除 樹勢管理(適切な灌水管理、施肥管理等)	【9月19~21日調査】 発生面積: 平年並 発生量: 平年並
		灰色かび病	薬剤散布 湿度管理(施設内の換気、暖房機の活用等) 栽培管理(摘葉、被害葉除去等)	【9月19~21日調査】 発生面積: 平年並 発生量: 平年並
		ハダニ類	薬剤防除、天敵による防除 周辺雑草の除草	【9月19~21日調査】 発生面積: やや多い 発生量: やや多い
		アザミウマ類	薬剤防除、天敵による防除 防虫ネット等による侵入防止対策 周辺雑草の除草	【9月15~21日調査(ピーマン)】 発生面積: 多い 発生量: 多い